

# 体力科学投稿規定

改訂：2015（平成27）年12月1日

## I. 投稿資格

本誌への投稿は本学会の会員・非会員を問わない。また、編集委員会が必要と認めた場合、会員・非会員を問わず投稿を依頼することができる。

## II. 掲載採否・順序

原稿の採否は、原則として2名の査読審査により編集委員会にて決定する。査読者からの意見やコメント等は2ヶ月以内に修正した論文を提出する。期限内に提出されなかった論文は不採択とする。掲載は原則として採択順とする。

## III. 原稿の種類

総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）、教育講座、抄録、その他（Letter to the Editor、議事録、学会記事、会報など）とし、原則として和文のみとする。

- A. オンライン投稿：投稿総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）とする。
- B. 依頼総説、教育講座、地方会抄録、その他（Letter to the Editor、議事録、学会記事、会報など）は、J-STAGE オンライン投稿審査システムを使用せず、以下のE-mailアドレスへ添付ファイルで投稿する。

hj-tairyoku@turui.co.jp

## IV. 原稿一般規定

ヒトおよび実験動物を対象とした研究の原著、ノート、資料および事例報告（症例報告を含む）では、当該研究施設等の倫理審査委員会あるいは動物実験委員会等の承認を受けた研究であることを「方法」に明記し、承認番号を記載するものとする。掲載された論文の著作権は日本体力医学会に帰属する。

- A. 使用ソフトウェア：下記の汎用ファイルで作成する。
  - 本文ファイル：Microsoft Office Word
  - 図表ファイル：Microsoft Office Word, Excel, PowerPoint, PDF, JPEG
- B. 用紙設定：和文、英文抄録ともに、用紙設定をA4判とし、上下左右3cmの余白を設け、左側に行番号を入れ、一段組みで10.5ポイント以上の文字でダブルスペースにて入力する。
- C. 用語：日本医学会医学用語管理委員会編「日本医学会用語辞典」英和改訂第3版（2007年出版）、和英（1994年出版）を参照する。
- D. 文体：原稿は、平かな、新かなづかい。当用漢字、外国語、外国固有名詞、化学物質名などは原語、外来語、動植物名などは片かな、数字はアラビア数字を使用する。
- E. 単位及び単位記号：原則として国際単位系（SI）に従うが、当該領域で慣用されているものはこの限りではない。
- F. 図表：説明は英文で適切な題目をつけ、それに続いて図表の内容が理解できる説明を別紙に記載する。
- G. 掲載料及び別刷料：筆頭著者が本学会会員の場合、1編につき刷り上がり6頁までは本学会が負担する。（2,400字が刷り上がり1頁に相当する）  
6頁を超過した場合、1頁あたり3,000円の掲載料を著者が負担する。  
筆頭著者が非会員の場合、全頁について1頁あたり3,000円の掲載料を著者が負担する。  
別刷料は著者負担とする。尚、論文掲載後に正誤表を新たに追加する際、その料金は著者負担とし、1頁につき6,000円の掲載料を負担する。

H. 校正：編集委員会の決定した期日内で、校正はすべて著者の責任により行う。

I. 投稿についての問い合わせ

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1

鶴岡印刷株式会社内 「体力科学」編集事務局宛

〔電話FAX 共通 0235-22-3120〕E-mail : hj-tairyoku@turuin.co.jp

## V. 投稿規定

A. 原著および総説

1. 論文は独創性に富み、未投稿の研究論文とする。1頁目には、表題、著者名、共著者名、所属機関名、所在地の各（和・英）と、別刷希望部数を明記する。2頁目には英文抄録とKey words、3頁目以降に緒言、方法、結果、考察、引用文献、図の説明の順に記載する（図表の挿入位置は本文に赤で示す）。表および図は本文原稿とは別に作成する。また、表および図の中の文字および説明は、英語表記とする。
2. 原稿には英文抄録（Abstract：研究目的、方法、結果、結論などを含めて250words以内で記載）およびその和訳文を付ける。またランニングタイトルは、和文で20字以内を明記し、Key words（5語以内）を付ける。Key wordsはMedical Subject Headings（国立医学図書館：最新号）を参考にする。
3. 本文中で引用文献に言及した場合、文章の右肩か著者名の右肩に、末尾の引用文献に照応する番号を付ける。3人以上の共著の場合は“ら”“et al.”を用いる。

例1：長島<sup>1)</sup>によれば……………

例2：手島と角田<sup>2)</sup>によれば……………

例3：馬ら<sup>3)</sup>によれば……………

4. 文献表の作り方

- 1) 引用文献の記載順序は本文中の引用順に整理して、本文中の番号と照合する。文献表の著者名は“ら”、“et al.”と省略せず、全著者名を列記する。人名の記載順は姓を先にして名を後にする。本文中に引用されていない文献は、文献表に記載しない。doiの記載を推奨する。

2) 雑誌から直接引用する場合

番号、著者名：論文表題、掲載雑誌、巻：頁（始頁－終頁）、西暦年数の順に記す。

例1：長島未央子：長時間自転車運動が鍛練者の酸化ストレス度及び血中ビタミン濃度に及ぼす影響, 体力科学, 60: 279-286, 2011. doi: 10.7600/jspfsm.60.279.

例2：手島貴範, 角田直也：身長相対発育からみた男子サッカー選手の大腿部筋厚発育とボールキック能力の発達, 体力科学, 60: 195-205, 2011. doi: 10.7600/jspfsm.60.195.

例3：馬 佳濛, 柴田 愛, 村岡 功：インターネットを利用する中国成人における推奨身体活動充足に関連する社会人口統計学的要因, 体力科学, 60: 185-193, 2011. doi: 10.7600/jspfsm.60.185.

3) 単行本から引用する場合

番号、著者または編者名、章名、書名（章名がある場合は書名をイタリック体にする）、版数（括弧に入れる）、編者名（章著者がある場合）、発行所、発行所の所在地、引用頁、西暦年数の順に記す。

例：彼末一之, 中島敏博. 4. 神経機構 I - 温度求心路と体温調節「中枢」-, 脳と体温 - 暑熱・寒冷環境との戦い -, 共立出版, 東京, 72-97, 2000.

4) 訳本から引用する場合

著者名, (訳者名), タイトル, 出版社, 地名, ページ, 出版年の順に記す。

例：アメリカスポーツ医学協会編（日本体力医学会体力科学編集委員会監訳）、運動処方

の指針-運動負荷試験と運動プログラム-原著第8版, 南江堂, 東京, 57-108, 2011.

5) 欧文の雑誌と単行本から引用する場合

例 1 : Steinberg SF. The molecular basis for distinct  $\beta$ -adrenergic receptor subtype actions in cardiomyocytes. *Circ Res* 85: 1101-1111, 1999. doi:10.1161/01.RES.85.11.1101.

例 2 : Bajotto G, Shimomura Y. Determinants of disuse-induced skeletal muscle atrophy: Exercise and nutrition countermeasures to prevent protein loss. *J Nutr Sci Vitaminol* 52: 233-247, 2006. doi:10.3177/jnsv.52.233.

例 3 : Sato S, Nomura S, Kawano F, Tanihata J, Tachiyashiki K, Imaizumi K. Effects of the  $\beta_2$ -agonist clenbuterol on  $\beta_1$ - and  $\beta_2$ -adrenoceptor mRNA expressions of rat skeletal and left ventricle muscles. *J Pharmacol Sci* 107: 393-400, 2008. doi:10.1254/jphs.08097FP.

例 4 : Shimomura Y, Murakami T, Nakai N, Nagasaki M. Exercise and metabolism in muscle cells: Molecular aspects of energy metabolism during exercise and adaptation to exercise training. In: *Exercise, Nutrition, and Environmental Stress* Vol.1 (Nose H, Gisolfi CV, Imaizumi K, eds.), Cooper Publishing Group, LLC., MI, USA, 89-116, 2001.

B. ノート, 資料および事例報告 (症例報告を含む)

原著及び総説の投稿規定に準ずる。但し, ノートおよび事例報告 (症例報告を含む) は原則として刷り上がり 4 頁以内, 図表は 2 点までとする。

C. 依頼総説および教育講座

1. 依頼総説および教育講座は, 体力科学編集委員会の依頼による。

2. 原稿について

1) 依頼原稿は刷り上がり 10 頁以内を原則とする。

2) いずれの原稿も表題, 著者名, 所属などは体力科学投稿規定 V-A に準じて英文名を附す。

教育講座では必ずしも英文抄録を必要としないが, 依頼総説では体力科学投稿規定 V-A に準ずる。

D. 地方会の抄録

原稿は, 一編 900 字以内で表題, 著者名, 所属, 本文を和文で記す。

※提出期限に遅れた場合, 本誌に掲載されない。

E. その他 (Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など)

※Letter to the Editor の項では, 本誌に掲載された原著, 総説, その他の掲載内容についての質問, 疑問, コメント等を編集委員会に寄せ, それに対する回答を執筆者に求め, その内容を掲載する。質問者も回答者もすべて実名とする。

VI. 倫理・利益相反

A. 人体ならびにヒト組織を対象とした科学研究を取り扱う論文では, その実験は 1964 年のヘルシンキ宣言 ( <http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/> ) で承認された倫理基準, または 2014 年 12 月に文部科学省および厚生労働省により制定された「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」 ( <http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10600000-Daijinkanboukouseikagakuka/0000069410.pdf> ) に従って実施されなければならない。また, ヒト遺伝子を取り扱う実験は, 日本政府のヒトゲノム・遺伝子解析研究 ( [http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito\\_genom.html](http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito_genom.html) ) に従ってなされなければならない。日本体力医学会編集委員会では, 所属機関の倫理委員会の承認を得た後に実施された研究に限ってその論文の投稿を受け付ける。当該研究がこれらのガイドラインに従って実施されたことを投稿論文内に明記し, さらに所属機関の倫

理委員会が発行した承認書の承認番号を論文中に記載するものとする。

- B. 実験動物を対象とした研究においては、わが国の動物実験関連法規・指針を遵守して実施されなければならない。投稿論文内にはその旨を必ず明記し、所属機関の動物実験委員会等が発行した当該動物実験承認書の承認番号を論文中に記載するものとする。
- C. 総説、原著論文、それに準ずる論文を投稿する際、日本体力医学会における事業遂行に係る利益相反（COI）に関する指針（[http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi\\_guideline.htm](http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi_guideline.htm)）に基づき、該当する場合には（「自己申告による利益相反申告書」（別紙様式1））に記入し、併せて編集事務局に提出するものとする。定められた利益相反状態に該当しない場合は、論文末尾に「利益相反自己申告：申告すべきものはなし」と記載するものとする。

附：投稿論文の種類は概ね次の基準によって分類される。

- 1) 原著：独創的研究で新しい事実と価値ある結論を有するもので、体力科学・スポーツ医学の進歩に貢献するものとする。
- 2) ノート：原著より短い、新しい事実や価値ある結論が含まれるものとする。
- 3) 資料：適切な分析法または調査法による有用な結果が含まれ、公表することにより体力科学・スポーツ医学の分野において会員の研究・実践活動に有用な情報を含むものとする。
- 4) 事例報告(症例報告を含む)：運動・スポーツ等による体力医学・スポーツ医学の立場からみた様々な効果または治療・指導効果等の事例報告。

## 論文の分類

### I 生理科学的研究

- I - 1 神経, 感覚
  - I - 1 - a 末梢神経
  - I - 1 - b 中枢神経
  - I - 1 - c 感覚
  - I - 1 - d 運動制御
- I - 2 運動器
  - I - 2 - a 筋生理
  - I - 2 - b 筋生化学
  - I - 2 - c 骨, 関節
- I - 3 呼吸, 循環
  - I - 3 - a 呼吸
  - I - 3 - b 心臓
  - I - 3 - c 末梢循環
- I - 4 血液, 免疫
  - I - 4 - a 血液
  - I - 4 - b 免疫
- I - 5 体液, 内分泌
  - I - 5 - a 体液, 汗, 尿
  - I - 5 - b 内分泌
- I - 6 代謝
  - I - 6 - a エネルギー代謝
  - I - 6 - b 糖代謝
  - I - 6 - c 蛋白代謝
  - I - 6 - d 脂質代謝
- I - 7 栄養, 消化
  - I - 7 - a 栄養
  - I - 7 - b 消化, 吸収
- I - 8 形態, 体構成
- I - 9 加齢, 性差
  - I - 9 - a 発育発達
  - I - 9 - b 老化
  - I - 9 - c 性差
- I - 10 環境
  - I - 10 - a 温湿度
  - I - 10 - b 気圧, 風圧
  - I - 10 - c 低酸素
  - I - 10 - d 高酸素

### I - 11 トレーニング

- I - 11 - a 呼吸, 循環
- I - 11 - b 代謝
- I - 11 - c 筋骨格系他
- I - 11 - d 体組成
- I - 11 - e その他

### I - 12 生活, 健康

- I - 12 - a 休養, 疲労
- I - 12 - b 健康管理
- I - 12 - c 疫学

### I - 13 バイオメカニクス

- I - 13 - a 力学的情報
- I - 13 - b 動作分析
- I - 13 - c その他

### I - 14 遺伝子

- I - 14 - a 遺伝子多型
- I - 14 - b 遺伝子制御
- I - 14 - c その他

### I - 15 その他

### II スポーツ医学的研究

#### II - 1 スポーツと疾患

- II - 1 - a 呼吸器疾患
- II - 1 - b 循環器疾患
- II - 1 - c 代謝疾患
- II - 1 - d スポーツ外傷
- II - 1 - e スポーツ障害
- II - 1 - f スポーツ歯科
- II - 1 - g その他の疾患

#### II - 2 リハビリテーション, 運動療法

- II - 2 - a リハビリテーション
- II - 2 - b 運動療法

#### II - 3 薬物, ドーピング

#### II - 4 スポーツ心理学

#### II - 5 その他